

第2次安来市 DX 推進計画 -概要版-

I DX推進計画策定の目的・趣旨

第1次計画からの発展

第1次計画（計画期間：令和5年度～令和7年度）で構築した「デジタル活用の土台」を基盤に、本計画は市民がデジタル化の恩恵を直接実感できるサービスを創出する「**本格展開・価値創造フェーズ**」と位置づけます。

人口減少社会における経営戦略としてのDX

「安来市人口ビジョン」が示す2070年の将来人口（予測：約1.46万人、目標：概ね2.01万人）という厳しい現実を直視し、**限られた経営資源（予算、人材等）**で行政機能を維持するための「**経営戦略**」としてDXを推進します。

市民の暮らしの質の向上と地域幸福度（Well-Being）の追求

デジタル技術の導入を目的とせず、その先にある「**市民の暮らしの質の向上**」を追求します。利便性の向上によって生まれた時間や資源を、地域コミュニティの維持や対人サービスの充実に充てることで、**市民一人ひとりが豊かさを実感できる「地域幸福度」**を確かなものにします。

2 計画の位置付け・計画期間

計画の位置付け：総合計画のビジョンを実現する「分野別計画」

本計画は、安来市の最上位計画である「第3次安来市総合計画」の分野別計画として位置づけます。総合計画が掲げる将来像「**ワザを磨き、安らぎをつむぎ、シンカするまち**」の実現に向け、あらゆる施策にデジタル技術を掛け合わせることで、**3つのシンカ（真価・深化・進化）**を加速させる役割を担います。

計画期間：令和8年度から令和12年度の5年間

国の「自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画」や、第3次安来市総合計画（前期基本計画）と整合させています。

情勢変化に応じた柔軟な見直し

生成AI等の急速な技術革新や、国の「地方創生2.0」等の政策動向を適時反映するため、毎年度の進捗評価に基づき、必要に応じて施策の追加や見直しを行う柔軟な運用を図ります。

3 DX推進の基本理念

基本理念：

デジタルで、安来の「真価」を磨き、市民の暮らしを「深化」させ、
次世代へ「進化」するまち

～使いたくなる、寄り添うデジタル～

ALL YASUGI (オールヤスギ) での推進

人口減少等の課題に対し、市民・地域・行政が一体となって「誰一人取り残さない」安心で
住みやすいまちづくりを推進します。

安来市が目指すDXの姿

新しい技術を積極的に取り入れ、時代に合わせて行政サービスをより良く進化させ続けま
す。次世代に誇れる、暮らしやすく活気ある安来市を目指して挑戦し続けます。

3つの「シンカ」による具現化

真価（真の価値を考える）：

市民の視点に立ち、行政サービスの「真の価値」を追求します。全庁的な業務プロセス再
設計と生成AIの利活用により、「書かない・待たない・行かない」窓口を徹底します。職員は
AIと共生することで、より丁寧な対面相談や、市民に寄り添う政策立案に注力します。

深化（つながりを深める）：

データ利活用により一人ひとりのニーズを把握し、市民に寄り添う「伴走型」サービスを
実現します。

進化（チャレンジを続ける）：

新しい技術を積極的に取り入れ、時代に合わせて行政サービスをより良く進化させ続け
ます。次世代に誇れる、暮らしやすく活気ある安来市を目指して挑戦し続けます。

3つの基本方針¹

(1) 深化(つながりを深める)

市民が安心できる、快適なまちづくりの実現

～上質な環境づくり、市民生活向上のためのDX～

市民の地域幸福度向上を目的とし、健康・福祉・防災等の暮らしに直結する公共的なサービスにおけるデータ利活用を推進します。あわせて、デジタルに不慣れな方への寄り添い型支援を強化し、地理的・世代的格差のない質の高い生活環境を構築します。

(2) 進化(チャレンジを続ける)

市民と一緒にすすめる、地域の活性化を実現

～地域産業発展、活性化のためのDX～

地域経済の持続可能性を確保するため、デジタル技術による地場産業の生産性向上と競争力強化を伴走支援します。また、地域交通の利便性向上、地域独自の資源(自然・景観・文化・歴史等)及び「ものづくりのワザ」を蓄積したデジタル資産の活用による官民共創等により、地域の稼ぐ力を最大化させます。

(3) 真価(真の価値を考える)

市民の視点で実行する、暮らしのための行政サービスの実現

～市民サービス向上に向けた庁内業務のDX～

「書かない・待たない・行かない」窓口(総務省が進める「自治体フロントヤード改革」)を全庁へ展開し、市民の負担を軽減します。徹底した業務プロセス効率化とAI共生型組織への転換により、職員がより付加価値の高い相談支援や政策立案に注力できる「真の行政サービス」を提供します。

¹ 本計画の基本方針(深化・進化・真価)の配列は、上位計画である「第3次安来市総合計画 前期基本計画」の施策体系との整合を図るためのものであり、実施の優先順位や工程を示すものではありません。各年度の工程については、4ページのスケジュールを参照してください。

4 DX推進スケジュール

推進スケジュールについては以下のとおりとします。なお、年度末に進捗レビューを行い、社会情勢や技術動向の変化、国の指針改定等に応じて、柔軟に計画を修正するものとします。

DX推進スケジュール

区分	令和8年度 フェーズ1「真価」 (真の価値を考える)	令和9年度 フェーズ2「深化」 (つながりを深める)	令和10~12年度 フェーズ3「進化」 (チャレンジを続ける)
計画のフェーズ	<ul style="list-style-type: none"> 価値創造基盤の完成 	<ul style="list-style-type: none"> 寄り添いの加速 	<ul style="list-style-type: none"> 変革の定着
情報システム	<ul style="list-style-type: none"> 標準化・ガバメントクラウド移行 業務プロセス効率化の徹底実施・本格運用 	<ul style="list-style-type: none"> 標準準拠システムの安定運用 運用データの利活用による高度化 	<ul style="list-style-type: none"> システムの継続的な改善 次期システム更新への備え
自治体DX	<ul style="list-style-type: none"> 「書かない・待たない・行かない」窓口の横展開 オンライン申請の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> 「書かない・待たない・行かない」窓口の深化(データ連携の開始) 行政運営の高度化(客観的なデータに基づく政策立案の実装・可視化) 	<ul style="list-style-type: none"> AI共生型組織の定着 市民の満足度と使いやすさを追求したサービスデザインへの改善
地域DX	<ul style="list-style-type: none"> 医療MaaS、バスロケーション等の実装開始 	<ul style="list-style-type: none"> 提供エリアの拡大・利便性向上 デジタルID・デジタル証明等の技術的選択肢の調査・検討 	<ul style="list-style-type: none"> 地域価値の最大化 地域課題解決へのデータ利活用
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> DX推進リーダー(第2期)の選任、集中研修実施(業務効率化編) 	<ul style="list-style-type: none"> DX推進リーダー(第2期)の集中研修実施(市民サービス向上編) 役職に応じたステップアップ研修と、全職員のスキル再習得 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルを当たり前にし、変化に挑む組織文化の醸成 自ら考え、サービスを磨き続ける仕組みの定着
管理・評価	<ul style="list-style-type: none"> 第2次アクションプランの策定・公表 	<ul style="list-style-type: none"> 年次レビュー・プラン更新(取組成果の検証・公表と次年度計画への反映) 	<ul style="list-style-type: none"> 第2次計画の総括と第3次計画の策定準備

※ 本スケジュールは、施策の実行順序に基づき、フェーズ1「真価」から順に構成しています。